

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 2F		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNo=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由で穏やかに、楽しみのある共同生活を送れるよう心掛けている。季節感を感じられるよう、イベントや初詣、日頃の散歩、園芸活動を行っている。少しでも楽しみがあるように、夏祭りや忘年会ではノンアルコールドリンクで気分転換を図って頂いている。利用者とのコミュニケーションをとり、体調不良などある時も好みの物なら食べられるようであれば、出来る限り提供するようにしている。健康状態、身体状況維持のため、職員が情報共有し、統一された支援を行うよう注力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【新型コロナウイルスへの感染予防策として、今年度は電話ヒアリングとして実施した】
 管理者が着任して2年、職員の定着率は良好であり、職員の年齢の幅の広さや信頼関係の下、働きやすい環境があり、理念である「アットホームな環境作り」にチームケアで取り組んでいる。
 管理者・職員の目指す「家庭的な暮らし」の実現に向け、週6日の入浴を支援している。コロナ禍によって、現在は1日おきの入浴ではあるが、仲良し同士で入浴している。天気の良い日には散歩や神社にお参りに出掛けたり、花や野菜作りの園芸活動を支援している。
 管理者は職員の提案に、「やってみよう」と、職員と一緒に実行している。利用者・職員が共に参加して楽しめるイベントの企画は、和気あいあいとして、利用者の笑顔に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームで家庭的な環境で過ごして頂けるよう意識を共有している。日常的に地域との交流を図るよう住人としての意識を持つように努めている。	理念をホーム内に掲示し、いつでも確認が出来るようにして浸透を図り、職員に周知を図っている。職員は「家庭のような環境」作りに取り組み、家族のように傍に寄り添った支援をしている。	職員への周知は出来ているが、会議などで理念を振り返る機会を持ち、確認し、更なる取組みに職員が一丸となって取り組んで行くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の公園を散歩、氏神様へ初詣、買い物など繋がりを作っている。敬老の日の常会からのお祝いも頂いている。	コロナ禍で地域行事は少ないが、地域の「草取りの日」には、施設周辺の草取りをしている。散歩では、地域住人と挨拶や立ち話をしている。地域からの頂き物や、敬老の日には町内会から品物を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	草刈り、ゴミ拾いに参加しているが、まだまだ認知症につてや事業所の存在については他人事という意識の方が多く感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で書面での報告となっている。ご家族には生活の様子を報告し、ご意見や希望をいただき反映できるよう努めている。	コロナ禍の為、運営推進会議は利用者と職員だけで行い、書面開催をしている。メンバー(市、地域包括支援センター、民生員など)に議事録と、行事の写真に一言が添えてある「行事報告書」を送付している。	議事録送付の際に、返信用の「意見書」を同封するなど、次回の運営推進会議までに、意見が頂けるような工夫が望まれる。多くの意見を得て、サービス向上に繋げて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者も多いことから社会福祉協議会や福祉課とも情報交換し、日頃の出来事なども報告している。	8名の生活保護受給者の関係で、保護係、福祉課、社会福祉協議会等の窓口に出向き、相互協力の関係を構築している。市の長寿課に運営推進会議の議事録を送付しており、ホームの状況は伝わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、実践している。またご家族にも説明し玄関の施錠をしないことについてもご理解頂いている。	2ヶ月毎の身体拘束適正委員会や、ミーティング時に研修を行い、管理者・職員の意識は高い。スピーチロックについても研修会や勉強会で学び、管理者や各フロアの指導係が、行動や言葉使いを、直接指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員との連携、会話をもち、虐待に繋がらないケアが行われるように努めている。当然のことながらそのような行為が見逃される事の無いよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の支援を受けている利用者があるということもあり制度に対する理解は出来ていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約まえに細かな説明をし、納得をいただいてから契約して頂いている。改定の際にも同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な関わりの中でご家族が希望や意見を話しやすい関係はできていると感じている。そのような意見を運営に反映するよう努めている。	家族とは話し易い関係であり、面会時の会話や電話で意見を聞き取ったり、LINEを使用して家族と話し合うこともある。疎遠になっている利用者・家族に、ホームが間に入ることで、交流が再開した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から出来る限り良い関係性を持ち、意見や提案を聞けるよう努めている。提案についてはミーティングで話し合い、代表者にも相談することもある。	会議などで意見を述べる機会はあるが、管理者も支援に入ることがあり、普段から話しやすい関係が出来ている。職員の「気軽に話が出来ると」の言葉や、定着率の良さからも、良好な関係がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の状況は管理者より報告されており、労働条件や職場環境等が整備されていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じ研修を受けたり、経験を積んで力をつけられるよう努めている。実際にはミーティングでの研修会が主になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などがあれば出来れば参加するようにしている。同業者の意見を聞くことで少しでも運営に反映できればと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族構成、入所前の環境、既往歴など把握し不安に思っている事についてしっかり会話をしながら時間をかけて関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とはしっかり話し、思いを察しサービスに活かすようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からしっかり話を聞き、本人の状態を見極め、適切な支援が出来るよう、職員と意見、情報を共有してる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長く務める職員が多く、家族同様の関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡、相談、報告をこまめに行い、良い関係が築けていると思う。本人や家族の立場を考慮しつつ、思いをくんで差し上げられるような支援をしていきたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り自由に生活できるよう支援している。 本人の希望をご家族に	コロナ禍により、馴染みの関係継続が難しいが、利用者が書いた年賀状や暑中見舞いを出し、疎遠の家族との交流が増えた事例がある。「家の跡地が見たい」との要望に、現地に見に出掛けてもいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルなどが無いよう、見守ってる。席の配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば協力し関係性を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり意向が違うので、希望に沿った暮らし方をして頂けるよう努めている。	余り喋らない利用者の思いを聞き取るため、「いつもと同じ」と決めつけず、その時の行動や仕草、どんなことを考えているかを察して、汲み取るようにしている。汲み取った思いは「連絡帳」に記入し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	口腔ケアや洗濯一つでもこだわりがあるので、徐々に共同生活のリズムに慣れて頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や身体状況などにより、一日の過ごし方や介助の方法を話し合い、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との連携、何より本人と常にコミュニケーションをとり現状に即した介護計画を作成している。	家族の意見・要望を確認し、3ヶ月毎に利用者に身近な担当者がモニタリングを行い、意向を反映した介護計画を作成している。状況変化や更新時には、サービス担当者会議を開催している。	目標設定を手の届く内容にし、利用者・家族・職員が、共に達成感を味わえる介護計画書の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子などで気づいたことは常に話、情報今日共有している。ケアの仕方などを工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な物の購入希望、受診の希望などあれば対応している。御家族の状況により入院時の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしく安全で安心して暮らせるよう、地域資源を活用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には身体状況により、しっかり相談し処方いただける。本人の悩みや希望を伝えている。	ホーム協力医をかかりつけ医に選択し、月1回看護師が同行して、定期通院をしている。専門医の受診は、家族対応が基本であるが、柔軟に対応している。家族付き添い時には、「情報提供票」を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、状況、排便状況など相談し、適切に体調管理が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報共有し、スムーズな治療が受けられ退院後の受け入れについての相談や連携ができる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化を注視しご家族と話し合い、出来る限り意向に沿えるよう努め、協力医療機関の助言も参考にし最善の支援が出来るよう努めている。	契約時に、「重度化指針」を説明して同意を得ている。その時が来たら、医師・家族・ホームで話し合いを重ね、意向を確認しながら、ぎりぎりまで支援し、最も適した住み替えとなるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より指導を受けたり、有りうる場面を想定している。全ての職員が対応できるよう実践的な指導の機会はまだもう少し増やさなければと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や避難経路の確認は十分行われている。避難所として指定を受けているため地域の方に周知して頂けるよう関わりを持つようになっている。	年2回、併設のデイサービスと合同で防災訓練(日中想定)を実施し、初期消火・避難訓練(避難場所の確認)をしている。ホームは、地域の災害時の避難場所であり、発電機やAEDを設置している。	夜間想定訓練、地震、水害想定訓練も実施してほしい。夜間の災害発生時には、不測の事態も考えられる。夜間想定訓練を実施し、万一に備えてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけたり、否定したりすることの無いよう言葉遣いや話し方に対してはスタッフへ注意を促し見守っている。	呼称は「さん付け」を基本としている。利用者のプライバシーを損なわないよう、言葉使いに気を付けている。トイレなどは、さりげない誘導をしている。利用者の個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と日頃から会話し、希望や気持ちを聞き、把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室での休息や体調の良し悪しにより、それぞれのペースで希望に沿った生活をして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えを行い、整理整頓し身だしなみを整えやすい環境にしている。化粧品なども購入される支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を活かして、準備や片付けをして頂いている。メニューについても季節感のあるものになっている。	併設施設の共同厨房から食事が届き、ホームで盛り付けをしている。食器を洗ったりテーブルを拭くなど、利用者の手伝いがある。おやつ作りには利用者も参加し、園芸活動で作った野菜が食卓に上る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢や体調不良で十分な食事が摂取出来ない場合には医師から栄養補助液を処方してもらうことがある。水分摂取は時間を決めて提供し健康管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高齢や体調不良で十分な食事が摂取出来ない場合には医師から栄養補助液を処方してもらうことがある。水分摂取は時間を決めて提供し健康管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態によりトイレ介助のタイミングを設定し、トイレでの排泄を心掛けている。	「排泄チェック表」があり、それを参考に定時誘導や個々に合った誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を基本として支援している。羞恥心にも配慮し、さりげない声掛け、誘導、見守りを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけは行っているが、なかなか応じない利用者もおられる。水分摂取を促し、下剤の服用のタイミングを職員間で常に話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	実際は週3回となっている。入浴はほとんどの利用者が楽しみにされているためゆったりと楽しんで頂けるよう順番などに配慮している。	週3回の入浴機会がある。大浴場で2～3人で入浴し、利用者から「温泉気分」と好評を得ている。利用者の状態に合わせた特殊浴槽もある。柚子湯など、利用者が季節を感じる工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝のタイミングは自由にしている。自室でテレビ鑑賞したり、仲の良い利用者同士で過ごしたりした後、休まれる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧が下がりやすい利用者、排便状況による服薬変更が必要な利用者については、常に申し送りや確認を行い支援するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度程度の季節感を感じられるイベントを行い準備などにも参加していただいている。盆正月にはノンアルコールビールで宴会気分を満喫して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思い出のある神社へお参りしたいなど、希望を聞いた際には可能な限り、同行している。また、ご家族にその旨を報告、相談させていただき外出できるよう支援している。	コロナ禍により、自由な外出は出来ないが、近隣の公園や神社にお参りに行ったり、小人数でドライブに行き花見を楽しんでいる。利用者につき添い、隣のドラッグストアでの買い物支援をしている。園芸活動では、種まき、水まきをして花や野菜を育て、ベランダに出て日光浴や外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行わないが、状況は把握していて、必要なものや欲しい物があれば使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新年には、年賀状を出している。何らかの用で電話をいただいたりかける場合にも、利用者本人に代わり話していただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のあるディスプレイを心掛けている。全ての施設内を整理整頓し、消毒を徹底している。明るく居心地の良い空間になっていると思われる。	新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、今年度は視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席の配慮は気を配っている。マッサージチェアやソファがあり独りでくつろぐこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人が、安全を配慮しつつ好みのものを置いて頂いている。模様替えや塗り絵を飾るなどそれぞれ工夫されている。	新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、今年度は視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由かつ安全であることを意識して環境を整えている。事故が起きた際にはその教訓を活かして環境を見直し「できること」は継続して頂けるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300660		
法人名	有限会社 アットホーム		
事業所名	アットホーム三谷 3F		
所在地	愛知県蒲郡市三谷北通4-117-1		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2373300660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立心のある利用者様が多く、整容にもこだわりを持っておられる。それぞれを尊重した介入や支援を行っている。
 また一日の過ごし方が、メリハリのあるものになるよう気を配っている。
 外出、散歩、園芸活動、イベント時のノンアルコールドリンクの提供など、楽しみのある生活を送れるよう心掛けている。
 コミュニケーションをとり、体調不良などあるときに好みのものなら食べれるようであれば、出来る限り対応して回復に努めるようしている。健康状態、身体状況維持のため、職員が情報共有し、統一された支援を行えるよう注力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームで家庭的な環境で過ごして頂けるよう意識を共有している。日常的に地域との交流を図るよう住人としての意識を持つように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の公園を散歩、氏神様へ初詣、買い物など繋がりを作っている。敬老の日の常会からのお祝いも頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	草刈り、ゴミ拾いに参加しているが、まだまだ認知症についてや事業所の存在については他人事という意識の方が多く感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で書面での報告となっている。ご家族には生活の様子を報告し、ご意見や希望をいただき反映できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会の支援や長寿課、福祉課との連絡は密にとっており、連携して支援を行えるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、身体拘束しない事について理解実践している。またご家族にも説明し玄関の施錠をしないことについてもご理解頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との連携、会話をもち、虐待に繋がらないケアが行われるように努めている。当然のことながらそのような行為が見過ごされる事の無いよう注意している。今後も学ぶ機会を多くしていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の支援を受けている利用者があるということもあり制度に対する理解はできている。また、そのような支援が必要になった場合は活用して頂くよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約まえに細かな説明をし、納得をいただいから契約して頂いている。改定の際にも十分説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な関わりの中でご家族が希望や意見を話しやすい関係はできていると感じている。そのような意見を運営に反映するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から出来る限り良い関係性を持ち、意見や提案を聞けるよう努めている。提案についてはミーティングで話し合い、代表者にも相談することもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の状況は管理者より報告されており、労働条件や職場環境等が整備されていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じ研修を受けたり、経験を積んで力をつけられるよう努めている。主にはミーティングでの研修会が主になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などがあれば出来れば参加するようにしている。同業者の意見を聞くことで少しでも運営に反映できればと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、家族構成、入所前の環境、既往歴など把握し不安に思っている事についてしっかり会話をしながら時間をかけて関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とはしっかり話し、思いを察しサービスに活かすようにしている。ご家族の立場に立って困っていることなどを理解し、安心して頂ける支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が安心出来るような支援が出来るよう、職員と意見、情報を共有してる。現病に対する事、衣食住そのものに対する事他、必要なことを支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長く務める職員が多く、家族同様に共同生活をしているという意識で過ごしている。人生の先輩から教を乞うこともあり、苦手なことはサポートするという当たり前の関係でいたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡、相談、報告をこまめに行い、良い関係が築けていると思う。本人や家族の立場を考慮しつつ、思いをくんで差し上げられるような支援をしていきたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り自由な環境が保てるよう支援している。友人が訪ねてくる、他の施設入所中の息子さんとの電話等、関係が継続されるよう支援に努めてる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルや孤立することが無いよう、席の配慮をし見守ってる。出来る限り気の合う方と会話したり、食事をして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば協力し関係性を保っている。相談を受けて再入所された事例もあり、次の支援に繋げていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり意向が違うので、希望に沿った暮らし方をして頂けるよう努めている。個々の心身状態を把握し本人がどう過ごしたいか、希望しているのはどんなことか把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	口腔ケアや洗濯一つでもこだわりがあるので、徐々に共同生活のリズムに慣れて頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や身体状況などにより、一日の過ごし方や介助の方法を話し合い、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との連携、何より本人と常にコミュニケーションをとり現状に即した介護計画を作成している。リハビリ、静養、マッサージ、支援内容を検討し計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子などで気づいたことは常に報告し、情報共有している。ケアの仕方、介助方法などを工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な物の購入希望、受診の希望などあれば対応している。御家族の状況により入院時の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしく安全で安心して暮らせるよう、地域資源を活用し支援している。特に社会福祉協議会の支援を受けておられる利用者が多いこともあり、常に連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には身体、健康状態をしっかり報告し、相談し処方等の対応をして頂いている。本人の気になる事や希望を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が定期的に配置されており、体調の変化、身体状況、排便状況など相談し、適切な体調管理が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報共有しやすいよう情報提供表を作成し、スムーズな治療が受けられるよう努めている。退院後の受け入れについての相談や連携ができる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化を注視しご家族と話し合い、出来る限り意向に沿えるよう努め、協力医療機関の助言も参考にし最善の支援が出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より指導を受けたり、起こりうる場面を想定し勉強会をおこなっている。全ての職員が対応できるよう実践的な指導の機会はもう少し増やさなければと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や避難経路の確認は十分行われている。避難所として指定を受けているため地域の方に周知して頂けるよう今後も関わりを増やしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけたり、否定したりすることの無いよう言葉遣いや話し方に対しては日頃から指導を行い、注意を促し見守っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と日頃から会話し、希望や気持ちを聞き、思いを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や身体状況により、それぞれのペースで居室での休息をとっていただくなど、希望に沿った生活をして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に季節の衣替えを行い、整理整頓し身だしなみを整えやすい環境にしている。化粧品なども購入希望があれば支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を活かして、準備や片付け、テーブル拭き等をして頂いている。好みを把握し食事の楽しみを感じていただけるよう努めている。(普段はおかゆだがお寿司は食べるなど)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢や体調不良で十分な食事が摂取出来ない場合には医師に相談し栄養補助出来るものを処方してもらうことがある。水分摂取は時間を決めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、それぞれの方に合った介助を行っている。最近では感染予防のためうがい薬を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態によりトイレ介助のタイミングを設定し、トイレでの排泄を心掛け、パットや紙パンツなどの使用を減らすよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけは行っているが、十分に出来ない利用者もおられる。定期的な水分摂取を促しており、食事内容はバランスよいものを提供できていると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週3回のとなっている。入浴はほとんどの利用者が楽しみにされているためゆったりと楽しんで頂けるよう順番などに配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝のタイミングは自由にして頂いている。フロアーや自室でテレビ鑑賞したり、仲の良い利用者同士で過ごしたりした後、休まれる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧が下がりやすい利用者、排便状況による服薬変更が必要な利用者については、常に申し送りや確認を行い支援するよう努めている。既往歴、服薬内容は全職員が把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度程度の季節感を感じられるイベントを行い準備などにも参加していただいている。盆正月にはノンアルコールビールで宴会気分を満喫して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思い出のある神社へお参りしたいなど、希望を聞いた際には可能な限り、同行している。また、ご家族にその旨を報告、相談させていただき外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行わないが、状況は把握していて、必要なものや欲しい物があれば使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新年には、年賀状を出している。何らかの用で電話をいただいたりかける場合にも、利用者本人に代わり話していただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のあるディスプレイを心掛けている。全ての施設内を整理整頓し、消毒を徹底している。明るく居心地の良い空間になっていると思われる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席の配慮は気を配っている。マッサージチェアやソファがあり独りでくつろぐこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人が、安全を配慮しつつ好みのものを置いて頂いている。自由に模様替えや塗り絵を飾るなどそれぞれ工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由かつ安全であることを意識して環境を整えている。事故が起きた際にはその教訓を活かして環境を見直し「できること」は継続して頂けるよう努めている。		